

第2学年生活科実践事例

「としょかんたんけんたい ～みんなが気持ちよく使うきまりを考えよう」

1 今年度の研究について

主体性とは、自らかかわろうとする力であると考えている。今年度は、子どもが主体性を高めることで、人、物、こととのかかわりを深めながら気付きの質を高めていく姿をめざす。

子どもは、対象と出会い、繰り返しかかあったり、仲間と気付きを交流したりしながら気付きの質を高めていく。その際、身近な生活の場から地域へと、かかわる場を少しずつ広げていくことを大切にしたい。そうすることで、子どもは、自分の学びを新たな場に生かそうとする意欲を高めたり、これまでの学びを関連付けようとしたりしながら気付きの質を高めていくことができるからである。そして、自らの学びを振り返った際に、自分自身のよさや可能性に気づき、自らの生活を豊かにしようとする力につながっていくのである。

そこで今年度は、以下のような視点で支援を行っていくこととする。

- 生活の場を広げながら対象とかかわる単元構成の工夫
- 気付きを関連付けるための問い返しの工夫
- 自分の学びを見つめ直す振り返りの工夫

2 実践事例 としょかんたんけんたい～みんなが気持ちよく使うきまりを考えよう～(第2学年)

(1) 授業の構想

① 本単元で求める子どもの姿

- 図書館を利用したり、図書館を支えている人とかかあったりする中での気付きを自分の生活経験やこれまでの学びと結び付けながら分かりやすく伝えている(自己の発揮)
- 図書館で見つけた物や図書館を支えている人についての仲間の気付きの具体を捉え、自分の気づきとの共通点や相違点を見出している(かかわり)
- 図書館での学びを繰り返す中で、公共物や公共施設を大切にすることのよさに気づき、次時の活動や生活場面での実践に取り組もうとしている(心の幹)

② 本単元で求める子どもの姿を実現するために

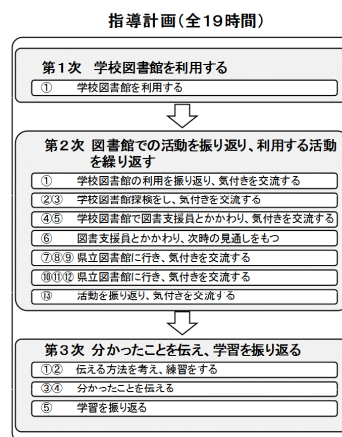
- ア** 学校図書館を利用した後、県立図書館を利用する単元構成を仕組む。そうすることで、学校図書館の学びと県立図書館の学びを結び付けることができるようにする。
- イ** 図書館の掲示物の工夫や働いている人の様子についての気づきが出た際には、「誰が」「なぜ」などと全体に問いかける。そうすることで、図書館で働いている人の思いや願いについて考えることができるようにする。
- ウ** 教室内に図書館の本や修理に使うテープなどの図書館に関する物を用意し、それらを用いて動作化しながら気付きを伝えるように促す。そうすることで、仲間の気付きの具体を捉えることができるようにする。
- エ** 毎時間の終末に、分かったことや疑問に思ったことを観点に振り返りを行う。そうすることで、次時の学習への意欲を高めることができるようにする。

③ 目標

- 公共物や公共施設を支えている人々にかかわることをとおして、身の回りにはみんなが使う物やそれらを支えている人々がいることに気づき、正しく利用することができるようにする。
- 公共物や公共施設を大切にすることのよさや正しく利用することができた自分に気づき、生活をよりよくしていこうとすることができるようにする。

(2) 子どもの学びの実際 ※波線は資質・能力が発揮された子どもの姿、下線は前述の支援との対応を表す

本単元は、公共物や公共施設を利用する中で、それらをたくさんの人々が利用していることや、支えている人がいることに気づき、正しく利用できるようにする学習である。図書館を利用し、気づきを交流する中で、支えている人の思いや願いを知り、気づきの質を高めていくことをねらった。また、身近な学校から、自分たちの生活の活動範囲を広げ、学びを生かすことができるように、学校図書館にある物や、そこで働く図書支援員の方の思いや願いにふれた後、県立図書館を利用する単元構成を仕組んだ。【支援ア】以下に、子どもの気づきの質が高まっていった第2次の学びを中心に示す。



① 図書館探検に行きたい！【第2次第1時の学び】

第1次での学校図書館利用の際、本の選び方の違いを見取ったため、第2次第1時のはじめに、「どのようにして本を選んでいるか」を問うた。すると、子どもたちから、「図書室マップを見て、棚を調べる」「上村先生（図書支援員）に聞く」など、様々な本の選び方が出てきた。その中でK児が、「どこに何があるか、図書室のことはだいたい分かる」と発言をしたため、教師が見付けた、図書室の中にある猫の看板の写真を提示した。子どもたちは、「分かる」「見たことある」など、強い興味を示した。多くの子どもが写真についての発言をしていた中で、O児が、「他にも面白い物がある」とつぶやいたため、詳しく問うと、「ドラえもんとかクレヨンしんちゃんもいる」と発言をした。その発言をきっかけとして、「人形もある」「面白い物は他にもある」と発言がつながっていった。



振り返りを書いている様子

そして、授業の終末に、分かったことや疑問に思ったことを観点に振り返りを書く活動を設定した。【支援エ】以下に、その一部を示す。

R児 わたしは何だろうと思ったことは、猫です。どこにあるか見たことないので、今度、図書室に見に行きたいです。
N児 猫の予約ポストとかドラえもんとかそんなものがあるのかなと不思議に思いました。
Y児 猫が何か分からないんだけど、上村先生のおすすめだと思います。他にもおもしろいものがあると、びっくりしました。

観点に沿った振り返りを促したことで、本時の学習を振り返り、多くの子どもが次時への思いを表出することができた。このようにして、子どもたちは、次時の目的を明確にもち、意欲をもって図書館探検の学習に入っていたのである。

② 上村先生も岩崎先生も同じ気持ちなのかな？ [第2次第2時から第12時までの学び]

子どもたちは、図書館探検をとおして、多くの物を発見し、物に関する多くの気付きをもつことができました。そこで、次の時間に図書館探検の気付きを交流する時間を設けた。気付きの交流の一部を以下に示す。

K児 図書室には、いろんな数字がありました。なんで数字があるのかなと思いました。

教師 Kくんと同じ気付きをもっていた人いる？いろんな数字があったよとか。

(中略)

教師 じゃあさ、これ誰がつけたのかな？【支援イ】

H児 僕は、上村先生（図書支援員）だと思います。

C 同じです。

教師 理由があるなら理由もどうぞ。

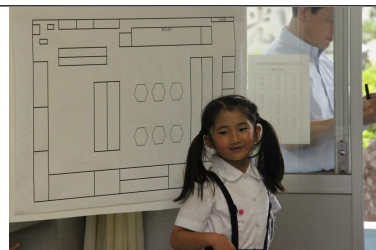
H児 理由は、図書室の先生は上村先生ですよ。上村先生は、本が好きで図書室の先生をやっているんですよ。で、みんなが分かるように、ここはなにになにがあるとか、ここにどういうのがあるとか、書いていて、みんなに分かりやすくしているのじゃないですか？【自己の発揮】

教師 上村先生がしていると思うのだね？

H児 うん。

C みんなのために。

K児が、学校図書館の分類番号についての気付きを発表したため、「誰がつけたのか」を全体に問うた。【支援イ】すると、H児が上村先生（図書支援員）の名前を出した。さらに詳しく理由を問うと、今までの生活経験と結び付けながら学校図書館の物と図書支援員とのつながりを話すことができたのである。【自己の発揮】この発言をきっかけに、図書委員会、ボランティアの方などの、人を意識した発言がつながっていった。そして、「図書館にある物はここで働く人に関係があるのではないか」「聞いてみたら詳しく分かるのではないか」【自己の発揮】という思いにつながり、働く人の思いや願いにふれる活動に移ったのである。



気付きを話す子ども

1回目の県立図書館の利用を終えた後の気付きの交流において、県立図書館で見つけた物だけではなく、「岩崎先生（県立図書館の司書）はどんなお仕事をしているのかな」「岩崎先生の気持ちを知りたい」と、県立図書館で働く人について知りたいという思いが多く出てきた。そこで、2回目の県立図書館では、仕事をする様子を見せてもらったり、インタビューしたりして、司書の方の思いや願いにふれる活動を設けた。活動後の気付きの交流の一部を示す。

K児 岩崎先生はいろいろなお仕事をされていて、疲れないのかなと思いました。

R児 付け加えがあります。岩崎先生は本が好きだからがんばっているのではないですか？

教師 岩崎先生ががんばっているなと思ったのだね。

J児 気付いたことがあります。岩崎先生の思いと上村先生の思いは同じなのではないですか？

教師 どういうこと？

J児 上村先生は、本が好きだから、みんなにも本を大切にしてほしいという気持ちでお仕事をしましたよね。岩崎先生も、本が好きだし、「本は財産」と言っていたから、本を大切にしたいという気持ちは同じだと思います。【自己の発揮】

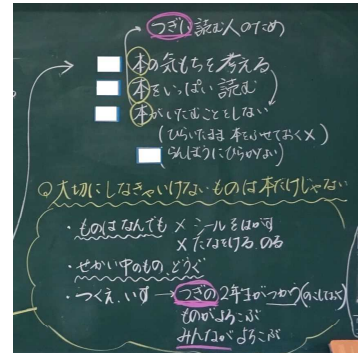
H児 あ、みんなのためにだ。【自己の発揮】

J児は、司書の方と図書支援員の方の思いや願いの共通点に気付き、全体に伝えることができた。他にも、学校図書館の学びの後に県立図書館の学びに移ったことで、様々な場面で、学校図書館での学びを生かしている姿が見られた。このように、県立図書館での気付

きの交流をとおして、学校図書館での学習と県立図書館の学習を結び付けながら気付きの質を高めていくことができたのである。こうして、子どもたちは、「学校の本だけではなくて、県立図書館の本も大切にしたい」という思いを強くもつことができた。

③ 大切にしなきゃいけないのは本だけじゃない！【第2次第13時の学び】

第2次の終末に、今までの学びをまとめる時間を設けた。子どもたちからは、本を大切にするために、「本の気持ちを考える」「本が傷つくことをしない」「次に読む人のことを考える」などの発言が出た。その中で、S児は「大切にしなきゃいけないのは本だけじゃないと思う」と発言をした。しかし、S児の発言に対して多くの子どもが分からなさを感じている様子が見られたため、具体物を用いた動作化を促した。【支援ウ】するとS児は、本と机、椅子を用いて、それぞれを大切にしなかった例を動作化して示し、



第2次終末の板書

「どちらも次に使う人がこのままだと困るから、そこが同じ」と発言をした。動作化により、S児の気付きの具体を捉えることができたことで、「似ていることがある」「他にもたくさんある」「全部大切」など、自分の気付きと仲間の気付きの共通点や相違点を見出すことができた【かかわり】のである。このようにして、これまでの学びをまとめ、分かったことや気付いたことを1年生に伝える活動に移ったのである。

3 実践を振り返って

第3次では、単元をとおして分かったことや気付いたことを1年生に向けて発表した。そのときの原稿を一部抜粋したものを以下に示す。

S児 ぼくたち、わたしたちは、今まで、図書館の勉強をしてきました。でも、ぼくが分かったことは、本だけを大事にするのではなくて、世界中の物を大事にすることです。気付いたことは、みんながそれを意識すれば、次に使う人たちが笑顔になるということです。これからそれを意識していきたいです。【心の幹】

J児 本だけではなくて、世界中の物を大切にしなければいけません。なぜかというところ、みんなが使っている物は、頑張ってお仕事をしている人が、みんなの気持ちを考えながら一生懸命働いてくださっているからです。1年生のみなさん、物を大切にしてください。また、もし、乱暴にしている人がいたら優しく「いけないよ」と言ってあげてください。【心の幹】

本単元において、子どもたちは、大切にしなければいけない物を、「学校の本」から「県立図書館の本」、「学校の机、椅子」、「世界中の物」へとつなげていった。また、自分たちが気付いたことだけではなく、これからの行動についても表現することができた。これらのことから子どもたちは、本単元をとおして、身の回りの人、物、ことと、自分の生活とのつながりに気付き、自分の生活に生かしていこうとすることができたと考える。これは、自他の気付きを関連付けながら、学校図書館から県立図書館へと、かかわる対象を少しずつ広げていったからこそその成果であると考えられる。一方で、振り返りの際、本時で学んだことを次時につなげることができていない場面も見られた。今後は、振り返りの視点やワークシートの形式など、子どもの主体性を次時につなげる振り返りについて考えていきたい。